

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 194 号	2017年9月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—9月3日（日）会員15名の参加がありました。活動内容は

- ① 観察路・水路周辺の草刈り
- ② 駐車場の草刈り

—9月9日（土）好天に恵まれ、親子自然観察隊は秋の昆虫を観察しました。二班に分かれて、A班はビオトープ周辺で、B班は昭和山入口まで行き、それぞれが網とカゴを持って、秋の野原を駆け巡り、楽しい観察になりました。東屋に帰って、捕まえた昆虫の種を同定し、逃がしました。観察隊は、28名（親12名、子16名）、会員は12名が参加しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません

◎行 事

—9月30日（土）維持管理（草刈り）

—10月7日（土）維持活動・草刈り

—10月14日（土）稲作体験・稲刈り（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会招聘）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「生き物たちの訴え」（原田満洲夫 記）

金子みすずの誌「大漁」に“朝焼け小焼けだ、大漁だ 大羽鰯（おおばいわし）の大漁だ。浜では祭りのようだけど、海のなかでは何万の、鰯（いわし）の吊いするだろう”。と詩っている。

何が言いたいかと云うと 親子自然観察隊で8月初めには須賀河内川の水棲生物・9月に秋の昆虫と、ビオトープ周辺で魚類や昆虫類を捕獲し調査した。研修の後には捕獲した生き物を元の場所に返すのが我々指導者が教えている事である。しかし何割かの罪もない生物が生き絶え絶えに復帰できないのも居る。みすずが訴える、生き物の命の大切さをこの自然観察の学習でも深く教えるべきであると、つくづく感じるものである。

何度かこの会報でも述べたが、15年前には、須賀河内川の水棲動物の種類や量も今の2倍や3倍も居てたくさんの魚類も確認できたが、今年もまた僅かな種類・量しか話を聞かなかつた。生息域の自然環境が変わった事が主たる原因であろうか？我々が捕獲しての原因であろうか？

5. 親子自然観察隊 「秋の昆虫」 (管 哲郎 記)

さわやかな好天のもと、秋の昆虫採集を行ないました。約半数の親子が欠席しましたが、残りの親子全員をA班とB班に分け、池回りルートをA班、昭和山入り口までのルートをB班とし、9:30より11:00まで昆虫採集を行ないました。

今年は昆虫が意外に少なく、数は取られませんでしたが、子供たちはそれなりに楽しんでくれたようです。親子で驚いたこともありましたが、虫かごの中のオオカマキリとハラビロカマキリがバッタを捕まえ、むしゃむしゃと食べたこと、見る見るうちにバッタが食べられ小さくなっていったことや、シオカラトンボがイトトンボをおいしそうにむしゃむしゃ食べたことなどです。

今回は親子で昆虫の名前調べ(同定)を行なっていただきました。少しは図鑑の見方などが勉強できたことと思います。現在ではすべてスマートフォンで簡単に調べられる時代ですが、それはそれで仕方ないのですが、図鑑の見方も勉強しておいてほしいと思いました。

また今年は特に「オオスズメバチ」が多く目につきました。池回りだけでも9頭いました。しかし、巣の周りでなく食べ物探しの状態だったので、人を襲う心配はなく、事故もなかったのがありがたかったです。秋の昆虫採集での心配事は、へび、特に「マムシ」とハチ刺され事故です。また、山に入ればクマ、イノシシ、サルなどが心配されますが、ビオトープではまず心配はありません。

【採集された昆虫】

- ・トンボ類：9種類～ベニイトトンボ、アオモンイトトンボ、モノサシトンボ、ハグロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、マユタテアカネ、ネキトンボ、ウスバキトンボ、
- ・チョウ類：4種類～ヤマトシジミ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ヒメキマダラセセリ、
- ・バッタ類：8種類～ツチイナゴ、ハネナガイナゴ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、イボバッタ、セスジツユムシ、ニシキリギリス、エンマコオロギ、
- ・その他の昆虫：7種類～オオカマキリ、ハラビロカマキリ、シリアゲムシ、ハムシの仲間、ハチの仲間、ガの仲間、ナナホシテントウ、
- ・水生昆虫：3種類～タイコウチ、コマツモムシ、コガシラミズムシ、
- ・両生類：4種類～ニホンアマガエル、ヌマガエル、ニホンアカガエル、ニホンカナヘビ、
- ・魚類：2種類～メダカ、ヌマエビ、

お世話していただいたスタッフの皆さん、今回もご苦労様でした。

昆虫採集の様子



採られた昆虫の同定



親子自然観察隊の感想

★有吉遼

トンボをとるのを楽しみにしていたけれど、先生たちの話を聞いていると、他の虫も捕まえたくなくなってきました。オスメスの見分けかたがむずかしかったです。

★有吉さん(母)

先生や虫にくわしいお友達のおかげで、虫の体の隅々までこんなにじっくり観察したのは初めてでした。自宅の庭や近くの空き地でも虫を捕まえて、子供と一緒に楽しみたいと思います。

★溝邊寛人

ニホンアカガエルやべにあかいととんぼなど、珍しい生き物やたくさんの昆虫に出会えてとても楽しかったです。

★溝邊義人

カエルをたくさん捕まえて楽しかった。

★溝邊さん(母)

いろんな昆虫を捕まえながら解説を聞けたり、どんな昆虫が何を食べるか、食べるものによって体のつくりが違うことなどたくさんのお話を教えていただき勉強になりました。

★下川航平

昭和山入口まで行きました。途中ででっかい野原がありました。そこでコオロギやトンボ、バッタをたくさんとりました。楽しかったです。

★下川さん(母)

ビオトープで虫に触れる機会があると思っていたのに、航平が虫の扱い方をあまり知らなかったことに気づきました。日頃から興味を持っていないと無理ですね。たくさんの種類の昆虫に出会えて勉強になりました。

★月本直秀

オニヤンマがとれたので、うれしかったです。他にトンボを2ひきとこおろぎ、はじめて名前を知ったバッタもつかまえたので、うれしかったです。

★木村亮介(小2)

僕は虫取りで、初めていっぱいのが取れました。とても楽しかったです。

★木村優那(小5)

私は、虫取りは家の周りなどでやっているけど、ビオトープの虫取りは家の周りでは取れない生き物がたくさんいるから、毎回どんな生き物が に出会えるかワクワクしながら来ています。私がかまえた生き物は、モノサシトンボでした。次来る時はたくさん取りたいです。

★宮本さん(母)

情けないことに母子共に虫嫌いで、当日はドキドキしながら参加しました☺

虫好きの子が多い中、“頑張って捕まえねばっ”と血気し、なんとかキチョウとモノサシトンボを追いかけて捕まえました。いつも逃げ惑う息子が、終わり頃には多少 虫に慣れたように見えました。他の子の虫かごの中のカマキリがイナゴを頭から食べているのを見て衝撃を受けていました。帰ってから、昆虫の百科辞典で調べてみると、メスが産卵のためにオスを食べたり、他に食べる物が無い時は同じ虫どうしが食べることもあることを知り、驚きながらも興味深く読んでいました。先生方の虫の詳しさに驚いていました！

今回、普段触れることのない虫の世界を知ることができ、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(21) アケビコノハ *Adris tyrannus* Guenee

鱗翅目 ヤガ科

ガの仲間、日本全土に分布し、7月ごろ羽化します。しかし成虫で越冬しますので、ほぼ1年中森の中にいます。コノハチョウというチョウの仲間がいますが、アケビコノハの成虫も枯れ葉にそっくり、一度葉っぱに止まるとまず見つけられません。筆者も追いかけてみたのですが、見つけることが大変でした(写真)。翅を広げると朱色地に渦巻き型の黒い模様がみられ、とても美しいガですが、成虫より幼虫のほうが目を引きます。

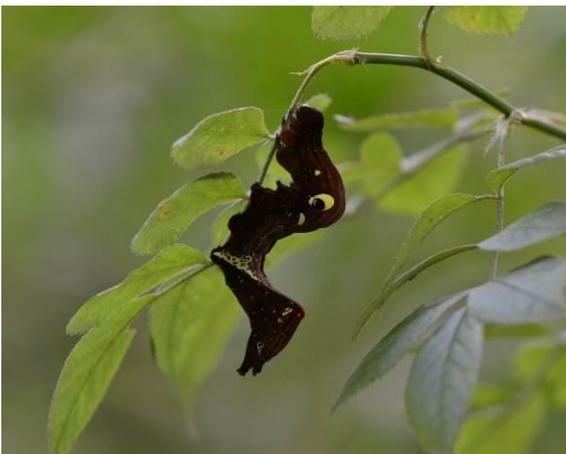
アケビ、ムベなどを食草としますので、夏になるとアケビの葉を探せば特徴のある幼虫が見つかります。成虫は探すのがむづかしいので、幼虫探しを楽しめます、一度探してみてください。



枯れ葉そっくりなアケビコノハ成虫



アケビコノハ幼虫



アケビコノハ幼虫



7. 会よりの連絡事項

1、9月27日(水)午後2時より臨時役員会を開きます。議題は来年度の「稲作体験」の継続実施か否か、継続の場合ほどの様な方法で行うか?等々の議事です。

決定次第つくる会会員他連絡を行います。

2、すでに決定事項の10月7日の稲刈りの日程変更について

今年の天候の経緯や餅苗の品種の変更等により稲の熟れが遅れています。正式には30日の活動日に決定し連絡しますが、各所連絡網(子ども会・観察隊・広報)では現在の所10月14日(土)が最有力日となっておりますので、各位お間違いのないようお願いいたします。

8. 編集後記

ひと月でずいぶん涼しくなりましたね。9日には親子自然観察隊の「秋の昆虫」に参加し、須賀河内川に沿って歩きましたが、ひと月前の「沢登り」が遠い昔のように感じられました。葛の花やヒヨドリバナを愛でながらのんびり歩いていたら、立派なクモの巣に出くわしました。普段ならろくに見もせず避けるのですが、周囲が興味深げに観察するので、つられて足を止め、巣の中央に張り付いているクモを観察してみました。黄色と黒の縞々の長い脚、足の付け根はオレンジ色。「ジョロウグモではないか」とのことでした。なにげにそのクモの巣を見ると、網目がすごくきれいなことにビックリ。網目は規則正しい模様になっていて、極細の糸なのに意外と丈夫。指で触ってみましたが破れません。クモが網を張る所要時間を調べてみると、早いものなら10分程度、長くても1時間くらいでつくってしまうそうですが、よく考えてみると、すごいことだと思いませんか?身近な生き物なのに今まで全く興味を持たなかったクモについて、こんなに注目したのは初めてです。これも機会をいただいたおかげだと感謝しつつ、楽しい時間を過ごしました。

(中本 亜矢子 記)